

# 青山

春彼岸号

No. 99  
2019/03/01

BAISOIN NEWS AOYAMA

## 梅窓院通信

### 住職挨拶

平成最後のお彼岸を迎え、はや三月ですが、皆さんお変わりなくお過ごしのことと存じます。

さて、平成最後となったお正月でしたが、千人を超えるという過去最高の初詣の方々をお迎えすることができ、修正会法要にも160名を超える参列をいただきました。好天に恵まれたこともありましたが、「初詣は梅窓院へ」ということが定着してきたのかと嬉しく思っております。そして、お節料理も変わらずの人気でした。誌面からですが、ご参詣いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

昨年末の文化講演会ですが、新しくお檀家さんになりました田中越郎先生にお話しいただきました。東京農業大学教授で医学博士、「世界一受けたい授業」にも出演されていた先生です。田中先生の教え子さんがいらっしゃったこともありましたが、祖師堂が満員御礼となりました。こちらも嬉しい行事でした。

さて、梅窓院の関連会社で、墓苑の販売をお願いしている株式会社日本エキスパートシステムの社名が、株式会社ジャパンエキスパートシステムに変わりました。日本からジャパンへとなりますが、変わらず皆様のお手伝いをさせていただきますので、引き続きよろしくお願いたします。

平成も残すところあとわずかとなりましたが、どうぞご自愛され、新しい元号を変わりなく迎えたいものです。

梅窓院第二十五世 中島 真成

満開の桜の下でお墓参り。



# 法話 仙教歳時風物詩 (45)

## 彼岸西風と彼岸日和

新宿区 香蓮寺住職

## 勝崎裕彦

今の三月二十一日春分の日つまり春のお彼岸のお中日は、旧暦の二月十五日に当たる。すなわち陰暦二月十五日は仏陀釈尊入滅の日、涅槃会である。このように春分の日頃と涅槃会は重なることがあり、旧暦陰暦時代の歳時暦で見れば、春分・中日、お彼岸・彼岸会は二月仲春の季語ということになる。

取った力量が大きい。渡辺大円の句には、阿弥陀如来の西山越えの慈悲の風を快く感取したい。

のお彼岸を写生したのが神坂知恵子の句である。

ここに一つの気象事例を挙げれば、陰暦二月十五日の涅槃会の頃に吹く冬の名残風を涅槃西風とか涅槃吹きという。春の到来を思わせてやわらかく吹く西風であるが、時に寒さの残る西風もあれば、きびしく吹き荒れる北風もある。これをまた彼岸西風とも称するのは、まさに涅槃会は春の彼岸会の頃に当たるからである。もともとこうした呼称法は、伝統行事と結びつけて覚えやすくしたことで、寒さの終わりの風を涅槃会に託し、暖かな軟風を彼岸浄土の西風に託そうとした意味も含まれている。

春が立って浅い春も過ぎ、一日一日と暖かくやわらいで行く時候に、時として寒のもどりや春の遅雪の荒れ模様のもとに、いよいよおだやかな日和を得るのがお彼岸である。彼岸日和を身心で実感すべく、いくつか秀句を拾ってみた。

野村喜舟と美濃寿満子の両句は、春の彼岸の墓日和・墓参日和の情景、だれもが経験している、これもおだやかなつねの光景である。

山寺の扉に雲あそぶ彼岸かな  
葛屋根のあをぞらかぶる彼岸かな

飯田蛇笏と久保田万太郎という二人の巨匠のおおらかな句を、まずは掲げさせていただいた。春の彼岸の青空と白い雲をゆったりと眺め渡して、おだやかな落ち着いた姿と心を置いている。

藤井巨水の句はまさに彼岸好日の代表句。加えて深川正一郎の句には、春のお彼岸の供養の心を重ねた今は亡き人への深い思いが込められている。そして最後に、私の好きな森川暁水と石田波郷の二句を記しておきたい。

沖は弧を太く張りをり彼岸西風(占魚)  
彼岸西風山越えて来し橋壳(大円)

高杉に陽炎見ゆる彼岸かな  
彼岸会の風にのりくる牛の声

お彼岸の夫婦仲よきかたゐかな  
兄弟の相睦みけり彼岸過

上村占魚は「只管写生」(ただひたすらな写生)を掲げた人であるが、海原の沖に「弧を太く張りをり」と写し

大須賀乙字に師事して、その句法を継承した大森桐明の句は、うららかな春の日に立ちのぼる陽炎を大杉の高さによって捉えている。そして、春風と牛の鳴き声を合わせて、のどけき気分

私は今、十七文字の言葉を通して彼岸会の頃の春の季節を感じてみる。そして、その句趣句心の中からお彼岸の仏心を心して受けとめてみる。

# 十二・一月の行事報告

文化講演会  
12月2日(日)



「栄養と生命」田中越郎氏

修正会  
1月1日(火)



今年で10回目となる修正会法要。

修正会とお雑煮の振舞いが無事終了致しました。元旦から沢山の方がお参り下さいました。



修正会の後にお節とお雑煮を楽しむ檀信徒の皆さん。



# 春彼岸法要

## 三月二十一日(木)

### 彼岸寄席

### 春彼岸法要

午後一時〜地下二階祖師堂

午後二時〜地下二階祖師堂



### プロフィール

はやし や しょう じゃく  
**林家正雀 師匠**

昭和26年、山梨県大月市生まれ。  
昭和49年に林家彦六師匠に入門。  
昭和53年に二ツ目に進み、  
正雀と改める。  
昭和58年、真打に昇進し、  
現在も幅広く活躍中。

### 塔婆申込み方法

同封のはがきを使い**3月10日(日)必着**でお申込み下さい。  
塔婆回向料は一本**7,000円**とさせていただきます。

### お支払方法

同封の振込用紙で**郵便局**にてお支払いいただくか、**当院受付**までお持ち下さい。  
(銀行でのお振込みはできません。)

### 2019年 春の動物慰霊法要のお知らせ

梅窓院の僧侶が  
ご供養に努めます。  
ぜひご参列下さい。



正午〜 2階本堂にて

主催:株式会社ジャパンエキスパートシステム

### 〈お檀家様へお願い〉

3月18日〜24日まで、  
境内駐車スペースは、  
お体のご不自由な方、  
車椅子をお使いの方の  
車を優先とさせていただきます。  
ご協力お願い致します。

### 春彼岸とは

春と秋に各宗派で行われる  
仏教行事で、太陽が真西に  
沈む日を中日として、その前  
後三日間ずつ、合計七日間、  
修行に励むのが彼岸の目的  
です。ちなみに彼岸とはあの  
世、つまり極楽浄土のことで  
浄土宗では念仏を称えて往  
生していくところになりま  
す。また、ご先祖のお墓参り  
をする期間でもあります。

### 春彼岸によせて

まだまだ寒い日が続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。去年、旅行で石川県加賀市に行きましたが、隣の福井県に足を伸ばして浄土真宗の蓮如上人が建立された吉崎御坊の跡に立つ蓮如上人記念館を拝観しました。記念館では地元の方に親切丁寧、大変熱心に蓮如上人の足跡を解説していただき、不勉強な私にはとても有難い機会となりました。同時に地元の一般の檀信徒様が熱く蓮如上人について語られたことを浄土宗僧侶として少々羨ましく思いました。

なぜかといいますと、浄土真宗の信仰がこの土地にしっかりと根付き、成熟していると感じたことに加え、五百年以上前に、たった四年だけこの地に留まった宗教的偉人に地元の方が、未だ冷めやらぬ憧憬の眼差しを送っているからです。吉崎の御坊は一五〇六年に朝倉氏に破却され、以後廃坊となり、歴史的な遺産は決して多くありませんが、親から子へと代々蓮如上人のファンであり続けるこの土地の人々こそ、蓮如上人が残された何よりのレガシー(遺産)ではないかと思いました。

一般の方が信仰を人に伝えることは、今の時代、勇気がいることかもしれません。しかしながら、信仰心とは人の体を自然に動かすような情熱と、先達の偉人への憧憬であります。私は福井の地でそのことを深く感じました。

さて、今年も春のお彼岸が近づいて参りました。蓮如上人は、法然上人の弟子である親鸞聖人の教えを継承され、同じお念仏を大切にされた上人です。そして、そのお念仏の元祖こそ法然上人です。春彼岸の大法要ではこの法然上人へ感謝しつつ、ご先祖様に手を合わせ、共にお念仏をお称え致しますように。

(法務部 中島真紹)

合掌

※観音堂エントランスにてお呈茶しておりますので、お気軽にお立ち寄り下さい。



### 春彼岸物産展

3月20日・21日 観音堂

今年も郡上八幡の特産品が梅窓院にやってきました。この機会にぜひお求め下さい。



浄土宗・

# 九品仏浄真寺と 等々力不動尊

(東急大井町線九品仏駅)

今回は武蔵野の面影を残す九品仏(浄真寺)と等々力溪谷にある等々力不動尊(真言宗満願寺)を訪れました。どちらにも縁あふれ、東京にすることを忘れるようなお寺おさんぽ会になりました。

大きな阿弥陀様が九体も並んでいるお寺。

仏さまのお面をかぶった二十五人の菩薩様のおめんかぶり(来迎会)のお寺として有名な九品山唯在念仏院浄真寺は、駅名にもなっている「九品仏」の呼び名で知られているお寺です。かつての奥沢城跡の広い境内地を持つこの九品仏と二三区内唯一の溪谷、等々力溪谷と等々力不動尊を訪れました。

待ち合わせ場所の東急大井町線の九品仏駅前からは閻魔様と奪衣婆のお堂。突き当たって左に向くと、立派な仁王門、そして右手には開山堂。仁王門をくぐ



修復から戻ってきた中品上生の阿弥陀如来像。中品堂の真ん中の阿弥陀様です。

ると右手に本堂(龍護殿)、そしてその正面に三つのお堂が並びます。右から、中品堂、上品堂、下品堂。各お堂には三体の大きな阿弥陀様が祀られていて、それぞれのお堂で手の位置が違い、さらに同じお堂の中でも、上生、中生、下生と、それぞれの指の合わせ方が違ってきます。つまり微妙に違う九体の阿弥陀様をお参りできる特別なお寺なのです。

多くの参拝団体がいる中、 住職に本堂でお寺の話を伺えた上に、おめんかぶりのお面を手に取りさせていただきました。その後、各お堂へ参拝。境内は



本堂の龍護殿前で清水住職と共に記念撮影。撮影後にお茶とお菓子をいただきました。



特別に出していただいたおめんかぶりのお面。



由緒来歴を詳しく説明いただいた住職。



◀ 3体ずつのお堂が3つ並んで、全部で9体に。





本堂に安置される本尊は釈迦如来像。

落ち葉を敢えて掃かずに堆肥にすることで武蔵野の面影を残したいとのことでした。

お昼はお隣の自由が丘駅に向かう途中の和食のお店でお弁当をいただき、大井町線を二駅乗って等々力駅で降ります。

駅前にある等々力溪谷入り口を横目に、まずは真言宗の覚かくばん鑲上人が開山した等々力不動尊へ向かいました。



お昼ご飯、おいしくいただきました。

上のお堂で参拝して階段で溪谷へと降りていくと、都内とは思えない深山幽谷の滝にお不動さんが祀ら

れていました。

この溪谷は湧き水を源とする谷沢川がかつての九品仏川と合流し、多摩川へ流れ込む途中で溪谷の様相となったもので、昼なお暗い、自然溢れる散歩道となっています。今回はこの溪谷を下流から上流への向かうルートとしました。参加者からは「話には聞いていたけれど、こんなに自然溢れる所とは」と驚きの声があがりました。

さて、今回も皆様に喜んでいただけてスタッフ一同ほっとしています。次回は大田区の池上本門寺を訪れたいと思っていますので、皆様のご参加をお待ちしています。

武蔵野の面影を感じさせる緑溢れる境内。



◀ 不動尊の参拝を終え、等々力溪谷の上流へと向かいました。



等々力溪谷の紅葉をバックに。



不動尊のお堂へまずお参り。



◆本日はお忙しい中、お邪魔させていただき、ありがとうございます。また、日頃から、梅窓院にお塔婆をお納めいただき、ありがとうございます。

いいえ、わざわざ日の出町までお越しいただき、ありがとうございます。

◆先ほど拝見した工場が、木の良い香りに満ちていました。お塔婆に使われる木は何の木になるのでしょうか。

モミの木です。

◆クリスマスの木ですか。

ええ、そうですね。モミの木は成長がはやい木で、加工しやすく色も白いので、塔婆や棺桶、そして蒲鉾の板などに使われます。

◆確かにきれいな白色で、塔婆を持ったときにも、柔らかくしっとりくる気がします。

そうなのです、柔らかい木なので、建築材には向かないのです。

◆なるほど。このモミの木、どこが産地になるのでしょうか。

今日お越しいただいたのは東京都西多摩郡日の出町で、東京都でも西のはずれの山奥になりますが、戦前まではこの辺りがモミの木の産地でした。ですから、うちをはじめ25軒も塔婆製造所がありました。

◆そうなのですか。そうすると今は輸入ですか、それともどこか国内の産地から？

30年ぐらい前から100パーセント輸入になりました。北欧、スイス、ドイツ、ウクライナ、カナダからです。

◆北の方の国からなのですね。

はい、北の方が木目がつんでいます。それにモミは各国の政府管制のもとで育てられていて、自然破壊とは無縁です。

◆ちなみに関根源右衛門商店さんは、屋号からしても古そうな感じですが、何代目になられるのですか。

明治時代の創業で、私で五代目になります。そして塔婆は父であり先代となる四代目から専門に扱うようになりました。それまでは農業と兼業だったようです。

◆そうですか、ちなみに塔婆の大きさを教えてもらえますか。

皆さんになじみ深いのは六尺(約1メートル80センチ)と五尺(約1メートル50センチ)、それに四尺、三尺。大きいのは八尺、そしてもっと大きな角塔婆もあります。また、小さいのでは、室内墓地用の経木と呼ばれる薄い塔婆もあります。

◆塔婆もいろいろありますね。塔婆以外に関根商店さんで扱っている品にはどんなものがあるのでしょうか。

絵馬や護摩札、升などの消耗品を主に扱っております。



工場で塔婆の説明を受ける中島住職。



中島住職と 代表取締役、関根商店前で。

◆なるほど。ちなみに梅窓院にはどのくらいの本数を収めていただいているのでしょうか。

年に3000本ぐらいですね。梅窓院さんには平成14年から収めさせていただいています。

◆年忌法要、お彼岸や色々な行事に合わせて塔婆を立てますが、古くなった塔婆は今はお寺で燃やせなくなっているのですが……。

はい、東京都内のお寺さんに収めた塔婆はほぼ回収しています。もちろん梅窓院さんのお塔婆も回収させていただき、こちらの工場裏でお焚き上げさせていただいております。

◆そうですか。特別な焼却炉になっているのですか。

はい、検査もありますので、煙の出ない焼却炉で灰も出ません。これはモミという木の特徴ですね。

◆きれいに燃えて無くなる、ということですか。

はい。何も残りません。

実は塔婆を作るにあたっては木くずや切り落としのような端材が大量に出ますので、焼却するのも大切な仕事ですね。

◆なるほど、作って収めて回収して燃やす、というわけなのですね。今日はとても勉強になりました。ありがとうございました。

いいえ、こちらこそありがとうございました。



五代目になられる

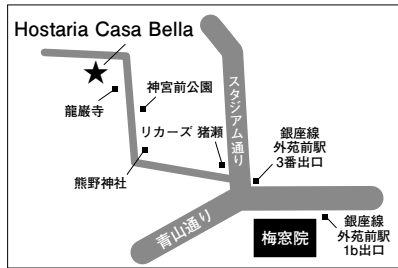
代表取締役。



Hostaria Casa Bella

今回は梅窓院から徒歩10分程の所にあり、イタリアンレストラン Hostaria Casa Bella をご紹介致します。  
出迎えてくれた越川さんは、学生時代に食べたカルボナーラが忘れられず、高職人から料理人になった異色のオーナーシェフ。当初はカルボナーラだけの専門店にして、名前も「カルボナーラ」にしようとしたものの、やはり単品の専門店では、ローマを中心としたイタリア郷土料理店にされたそうです。  
しかし、やはりこのお店の自慢は埼玉県の「たかはしたまご」を使用した生ク

リームなしの究極のカルボナーラ。材料へのこだわりはたまごだけではなく、お店で使用する野菜は全て自家農園のもので、特にジャガイモが美味しいそうです。  
外苑前から少し離れていますが、ぜひ法要の後席でオーナーシェフの越川さんが作る絶品のカルボナーラをいただいてみるのはいかがでしょうか。  
料理はアラカルトとコースがあり、カルボナーラは2100円でいただけます。  
また、ランチコース(5950円)、ディナーコース(6800円)にもカルボナーラが入っています。



Hostaria Casa Bella  
営業時間/ランチ11:30~14:00(L.O.)  
ディナー17:30~22:30(L.O.)  
定休日/日曜不定休  
席数/8席(カウンター2席、テーブル6席)  
住所/東京都渋谷区神宮前2-3-30  
第2竹上ビル B1  
TEL/03-6804-1495



素敵な花々に囲まれた隠れ家のようなお店です。



シェフおすすめのカルボナーラ。卵黄とチーズを閉じ込めたとても濃厚なパスタです。

青山俳壇

選者「ウエップ俳句通信」編集長

大崎紀夫

- ◎特選  
○ 寄り添うて残り香ほのと冬薔薇
- ◎入選  
○ ふとこころに大入袋風寒し  
○ 無住寺の賽銭箱に積む落葉  
○ はみ出して古本並ぶ冬の路地  
○ 雪吊りの残りし縄をリヤカーに  
○ 夕刊を配るバイクに暮れ早し  
○ 烏五羽十羽二十羽大枯野  
○ 丹沢も秩父も見えず時雨ける  
○ 崖水柱育むき出してゐるやうな  
○ 枯野道風の音また人のこゑ
- ◎選者詠  
○ 喧嘩する鶏小屋の鶏茶が咲いて  
○ ワンポイントアドバイス  
俳句では「句章」と「二句章」の型がほとんどで「二句章」の句が多く作られています。そしてその多くは「季語」「ナフリズ事柄」の取り合わせの型となつています。今回の特選句も入選句もたいていその型です。その型の他にもうひとつ「ナフリズ」の型があります。例えば「舟べりに水田夕日はやいびつ」(大崎紀夫)、「犬を呼ぶ口笛からす瓜が咲き」(好井由江)といった句、「犬を呼ぶ口笛」からす瓜が咲き」という型になっています。そういう句もたまには作ってみると、新しい発見があり、句作りの楽しさが増えるかもしれませんね。

投句募集

今回は「春の季語」でご自由にお詠み下さい。4月5日(金)を締切、2019年6月発送の『お盆号』にて発表致します。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募下さい。尚、選者が添削し掲載する場合がございますのでご了承下さい。皆さまの投句をお待ちしております。  
〒107-0062 港区南青山2-26-38  
梅窓院「青山俳壇」投句募集係

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。  
ウエップ編集室  
電話03-5368-1870

第七十四回  
食は命

食養研究家  
武鈴子

春の邪気払い  
ふきのとう

日本料理では、「春は苦みを添えよ」ということわざがあります。早春にいちやく芽を出すふきのとうは、特殊な芳香とほろ苦みが特徴。

ふきのとうは、江戸時代の薬物書『本朝食鑑』に、「肺を温め、咳を治し、痰を消し、肝を洗い、目を明らかにし、風邪を治療する」とあり、また『和歌食物本草』(和歌の形式による本草書)には、「ふきのとう 痰の粘るに食すべし 目を明らかにすはふきを止む」と詠まれています。ふきのとうは痰が粘るときに食べるとよく、また、目をはっきり見えるようにし、咳を止める作用があると。

そのまま刻んでお味噌汁の薬味にすれば、鮮やかな緑色と匂いたつ香りが春一番の風味となる。ふき味噌にして芳香を楽しむもよく、半分だけ衣をつけてからりと揚げると、色が冴えて春先の食卓を豊かにする。

ふき味噌は、まだ花があまり開いていないものを、細かく刻んでゴマ油で手早く炒めたら、いったん火から下ろしてみそと酒、みりんを加えていねいに混ぜる。材料を一通り混ぜ合わせたら、再び火にかけて数分、じっくり火を通す。容器に小分けして保存する。ご飯のお供や豆腐、こんにゃく、里芋などの田楽味噌にしても。おいしく食べて邪気払い!



## 2019年度 前期 仏教講座のご案内

梅窓院では4月より2019年度 前期 仏教講座を開講します。今年度も5名の先生をお迎えしております。どうぞお気軽にご参加下さい。

※詳しくは別紙チラシをご覧ください。

### 行事予定

#### 春彼岸会法要

3月21日(木)

寄席 午後1時～ 祖師堂

法要 午後2時～ 祖師堂

※詳細は3面をご覧ください。

#### はなまつり

4月5日(金)～8日(月)

寺院棟2階 本堂

お釈迦様の誕生日をお祝いする「はなまつり」。

寺院棟2階本堂エントランスに花御堂を、休憩所には甘茶をご用意しております。皆様どうぞご参拝下さい。



#### 大施餓鬼会法要

5月18日(土)

※詳細は施餓鬼号にてお知らせ致します。

#### 開山忌法要・能楽奉納

6月8日(土)

※詳細は施餓鬼号にてお知らせ致します。

#### 第77回 念仏と法話の会

6月18日(火)

法話 「幸せを呼ぶ心とは？」

講師 京都 静林寺住職

入江 康隆 上人

発行 行 / 梅窓院  
発行 日 / 2019年3月1日  
発行 人 / 中島 真成  
編集 / 青山文化村  
住所 / 〒107-0062  
東京都港区南青山2-26-38  
電話 / 03-3404-8447  
FAX / 03-3404-8107  
ホームページ / <http://www.baisouin.or.jp/>  
E-Mail / [jodo@baisouin.or.jp](mailto:jodo@baisouin.or.jp)  
題字 / 中村康隆元浄土門主  
総本山知恩院第八十六世門跡

### 梅窓院のお墓とペット供養の窓口

#### ジャパンエキスパートシステム 墓苑事業部からのお知らせ

先日、梅窓院施設内で「認知症セミナー」が開催され参加したのですが自分の近未来を聞いているようでした。墓地でお檀家様とお会いしても名前が思い出せない……大丈夫です。先方も私の名前が出ません……双方でニコニコしながら手を振ってお別れ……はしょっちゅうです。でも私はその方の墓所がどこにあるかはわかっているのその後、走って行って「そうそう〇〇様だった」と思い出します。

お檀家様のために墓苑部は今後大きめの名札でも付けておいた方が良いでしょうか？さて皆様にお知らせがございます。まもなく新元号になりますが当社はひと足お先に新社名「株式会社ジャパンエキスパートシステム」に社名変更いたしました。どこが変わったかという「日本」が「ジャパン」に変わりました。なぜ変えたか？直接お答えいたしますのでお声がけください。漢字とカタカナの違いです……とは申しませんから。

(墓苑部 森)

### 梅窓院 だより

#### 知られざるドイツ建築の継承者 — 矢部又吉と佐倉の近代建築 —

旧川崎銀行(現在は佐倉市立美術館エントランスホールとして使用されている)の竣工100年を記念して設計者である矢部又吉氏の展覧会が佐倉市立美術館で開催されました。



展示室に置かれた梅窓院の椅子と、この企画展の担当者である本橋浩介副主幹(学芸員)。

矢部又吉氏は梅窓院の無礙光会館(旧本堂)とともに家具も設計したと考えられており、現在お檀家様が法要控室で使用されている椅子も彼の作品と考えられます。この度、展覧会で皆様が普段座られている椅子と無礙光会館の絵葉書を展示ご紹介していただきましたので、ご報告いたします。



旧川崎銀行佐倉支店は現在の佐倉市立美術館エントランスホールに。



かつての梅窓院本堂だった無礙光会館は、矢部又吉氏の設計。



先生の指導のもと講座が進められます。

#### NLPカウンセリング講座開設

この度、梅窓院では心理療法の新しい形として注目され続けているNLP(神経言語プログラミング)の講座を開設しました。多くの方が精神不安などに悩まされる現代、この心理療法にご興味をお持ちの方にはちょうどよい講座です。

詳しくは、大本山清浄華院カウンセリング研修会事務局(担当:高橋)075(231)2550へ直接お問い合わせ下さい。

### お知らせ

お檀家様より付届をいただいた際に、当院よりお供物と一緒に渡しておりました冊子「仏教の生活」は出版元の都合により廃刊となりましたため、今後はお供物のみのお渡しとさせていただきますこととなりました。ご理解の程、宜しくお願い申し上げます。

### お檀家さんに伺いました

#### 「心癒される時間」

(平成30年 十夜法要にて)

法話は、配布された資料と照らし合わせて説明して下さったので大変分かりやすく、仏教について興味を持ちました。

また、十夜ライブでは大島花子さんがゲストでいらっしやると知りとても楽しみに待っておりました。歌声が綺麗で心癒されるひと時を過ごせました。

芋煮会も直接ご僧侶の方とお話ができるので、とても楽しかったです。